

サンシャインだより



サンシャイン農園で収穫したさつま芋を焼いて食べました。

社会福祉法人 サンシャイン福祉振興会

特別養護老人ホームサンシャイン美濃白川(本部)
サンシャイン美濃白川デイサービスセンター
サンシャイン美濃白川居宅介護支援事業所

〒509-1106 岐阜県加茂郡白川町坂ノ東5500番地1

TEL(0574)75-2340 FAX(0574)75-2888

地域密着型特別養護老人ホームあいらんど美濃白川

〒509-1105 岐阜県加茂郡白川町河岐2番地4

TEL(0574)74-1171 FAX(0574)74-1172

グループホームかわばた荘

〒509-1106 岐阜県加茂郡白川町坂ノ東5467番地1

TEL(0574)75-2699 FAX(0574)75-2566

佐見デイサービスセンターせせらぎ園

〒509-1222 岐阜県加茂郡白川町下佐見2510番地2

TEL(0574)76-0033 FAX(0574)76-2177

<http://sunshine-minoshirakawa.jp/>



長寿を祝して

9月15日、各施設で敬老会を催しました。サンシャイン美濃白川では、お祝いの席に駆けつけてくださった白川町長からご祝辞をいただき、それ応えて、代表で米寿を迎えられた森利津子さんが、挨拶と唄の披露をされました。

その後は久しぶりにご家族との食事を楽しまれ、午後からは白北民謡会のみなさんによる創作劇『岸壁の母』を鑑賞されました。中には、昔のことを思い出して涙される方もおられました。

これからもお元気で過ごされることを願っています。



▲白北民謡会の方と記念撮影

ボランティア感謝の集い

サンシャインには、今年度既に延べ1000人を超えるボランティアさんに来ていただいています。



漫才師 ビッグボーイズさん▲

▼落語家 雷門獅筆さん



日頃の感謝の気持ちを込めて、10月18日に町民会館にて「ボランティア感謝の集い」を開催しました。今年は落語家の雷門獅筆さんと漫才師のビッグボーイズさんをお招きし、みなさんに思いっきり笑って楽しんでいただきました。

“笑う”ということは、体に悪影響を及ぼす物質を退治するナチュラルキラー(NK)細胞が活発になり、免疫力がアップするそうです。たくさん笑って健康でいられるようにしたいです。



ボランティア コーディネーター 長尾真美から一言

サンシャインに来てくださるボランティアさんはとても明るくて、施設のためにという思いで活動を続けてくださるので、職員もいい刺激を受けています。

最近では、入居者とボランティアさんとペアで楽しむコミュニケーションセッション麻雀が人気です。お互い「次は勝つぞ。」と真剣勝負を通して楽しい時間を過ごしていただいているようです。また、ハンドマッサージボランティアさんに来ていただき、入居者からの「気持ちがいい」「指先が温かくなった」「また、やってもらいたいわ」との言葉にやりがいを感じておられるようでした。

ボランティアさんが友達をつれ、またその友達が仲間を誘ってくださることでボランティアの輪が広がっていきます。「ボランティアに来ることが私の生きがいやで」「家族がお世話になったから恩返ししたい」ときっかけは人それぞれですが、ボランティアさんにとって居心地の良い場所になりたいと思っています。

これからもよろしく願います。

地域交流スペースの活用 「あいらんどくへ行こう」

あいらんど美濃白川には地域交流スペースがあります。今回はそのスペースをふれあいいききサロンの方々が利用されました。

あいらんど美濃白川に初めて来られる方もあり、「こんなにきれいなやね」「こんな良い所なら、私も入りたいわ」と話しながら見学されました。次に、あいらんど美濃白川の紹介や介護保険の仕組み、認知症についての話を聞いていただきました。

その後、入居者の方が毎日おこなっている体操をサロンの方々にも体験していただきました。初めは座って参加していましたが、途中から立ち上がって身体を動かされました。



▲一緒に体を動かしました

昼食は入居者の方と同じものを食べていただきました。美味しいと言って食べられ、食事の作り方や食器に関心を持たれる方もありました。

食事のあとは各サロンによって内容が異なります。これまで行われた活動は、入居者との交流、DVD鑑賞、寄せ植えなどです。各サロンによって自由におこなっていただけます。



▲寄せ植えの様子

この地域交流スペースをサロンの方に利用していただく取り組みを通して、あいらんど美濃白川のことを知っていただく良い機会になりました。また、入居者には思わぬ再会があり喜んでいただくことができました。送迎のご相談もお受けいたしますので今後も地域の活動でご利用いただければと思います。

中学生の職業体験

毎年、白川中学校の2年生が2日間の職業体験学習をします。

今年は2名の生徒さんがサンシャイン美濃白川を希望してくれました。2人には、デイサービスでお茶出しや入浴後の整髪、食事の配膳、また利用者さんと一緒にレクリエーションなどを体験してもらいました。



▲みなさん楽しそうです

1日目は緊張していた表情も、2日目になると自分から利用者の方に話しかける姿がみられました。利用者さんもおかわいらしい新人職員さんに笑顔で接しておられました。今回の体験について感想を送ってくれましたので、一部をご紹介します。

田口くん…利用者さんの中には体が上手く動かせない方もいるので、体の事を考えて楽しく運動ができるレクリエーションなども考えられているところに関心しました。

今井さん…今回利用者さんの髪をかわかす体験では、「熱い」と思われなように気をつけて行いました。職員さんは利用者さんと話をするときには利用者さんと目線の高さを合わせて話されており、気配りがすごいと思いました。サンシャインが利用者さんにとって憩いの場になっていることがわかりました。

介護の職に就く人が減少している中、今回来てくれた生徒さんが将来福祉の仕事に就きたいと言ってくれたことはとてもうれしいことです。今後こうした体験を通して介護の仕事に志す方が増えることを願っています。



▲熱くないですか

入居者のご家族から お便りを いただきました

今年2月に退所された文子さんは物静かな方でしたが、職員に対して表情を崩し声を出して笑われることもありました。お部屋には、たくさん写真や洋服、馴染みの家具が置かれ温かみを感じました。

娘さんから、季節の折々にお手紙をいただきましたので、ご紹介します。

八年間という長い歳月を、本当に皆様にお世話になりました。感謝の言葉しか、思い当たりません。ありがとうございました。

現在九十六歳と五ヶ月、こんなにも母が長く生きてくれたのも、サンシャイン美濃白川のスタッフの方々のお陰です。優しく、親身なお世話のお陰です。

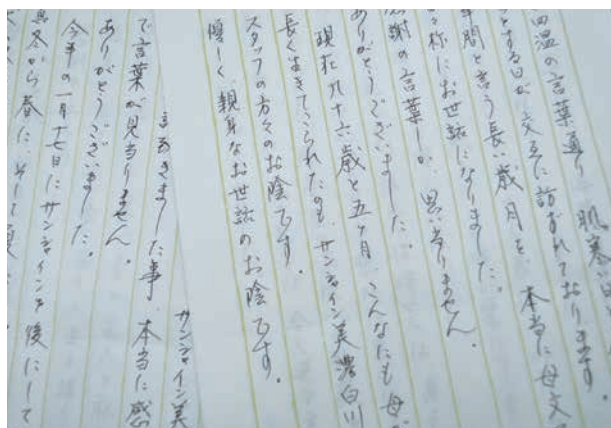
今年の一月十七日、病院に連れて来て頂き、その日の内に入院することになりました。最初は、呼吸も口でして苦しい表情もみかけられましたが、すぐに癒えて日増に楽になりました。早く病院に連れて頂いたお陰でした。

主治医の先生から療養型の病院への転院を強く勧められました。私の思いとは全く逆の方向への勧めに困惑の

日々でした。最後は美濃白川のホームでと想っていた私は本当に悩みました。途方に暮れました。二月七日、転院。不安の中で迎えた転院でしたが、主治医の先生、看護スタッフの方々の親身な対応に、いつしかここで良かったと思えるようになりました。

名古屋に生まれ、大正、昭和、平成と生きて来た母に、私の出来る最後の恩返しと思いい病院に通いつめていきます。

サンシャイン美濃白川の大勢のスタッフの皆様、本当に長い間お世話になりました。施設長様、私の心に寄り添ったお言葉、身に沁みました。残された日々を母と共に大切に過ごしたいと思っております。



▲お手紙は職員の励みになりました

サンシャイン 周辺探訪

名倉ダム ①

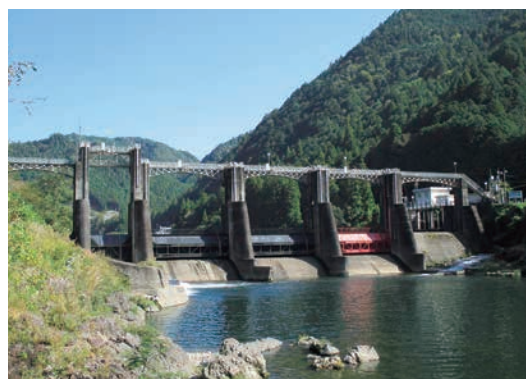
名倉ダムは、白川町坂ノ東の新津集落と河東の野原集落のあいだを流れる飛騨川に建設されたダムです。ここで取り入れられた水は、河岐にある名倉発電所に送られており、発電所の名がダム名にもなっています。

名倉ダムは、1936(昭和11)年に、当時の東邦電力によって建設され、戦争中は日本発送電、戦後になって中部電力に引き継がれました。

新津集落の「津」には船着き場の意味があります。ダム工事が始まるまでは船頭がいて、対岸の野原と舟で行き来をしていました。ダム建設中には100mほど上流につり橋が架けられ、工事関係者のほか、地元



▲建設中の名倉ダム (佐藤真二さん提供)



▲名倉ダム

の人たちも利用できました。そうした経緯があるからでしょうか、ダム上部につくられた飛騨川をまたぐ通路の通行が、いまでも一般に認められています。

このダムの水は、名倉発電所に加え、1987(昭和62)年に建設された新上麻生発電所へも送られています。二つの発電所の発電量は、合わせて最大で8万4400キロワット。およそ2万8000世帯分の電力をまかなうことができます。名倉ダムは、堤高が15m未満のため、河川法ではダムに分類されないそうです。地元では、新津の堰堤(えんてい)と呼ばれています。

社会福祉 社会保障 は、いま ⑬

介護保険の 縮小・後退・変質

社会福祉法人の在り方が、改正社会福祉法（2017年4月）に基づき転換期に立っています。それだけではなく、介護保険の後退により、ダブルパンチを受けています。

社会福祉法人改革の背景には何があるのでしょうか。社会保障への公費の削減、利用者・当事者への「自助」の強制。専門職員をボランティアや外国人人材に置き換え、法人の社会貢献を義務化し、ストックを使えと迫る仕組みが動き始めているようです。

そのもとで、福祉現場はどうなっているのでしょうか。厚生労働省が介護サービス事業所の「経営実態調査」（2017年10月）を発表しました。それによると、2016年度の収支差

を優先させることをうたつて、軽度・軽症者を市町村の総合事業へと移す制度の縮小化を進めています。

さらに、特別養護老人ホームに対しては入居基準を高くし、原則として要介護3以上とすることにしました。その結果、認知症の人など要介護2の利用者が、入居できない状況が起きています。

介護保険が縮小・後退・変質していく中で、中山間地域の社会福祉法人はどうあるべきでしょうか。私たちは、社協や民生委員協議会等と学習会を開き、住民の要望を掘り起こし、それを事業化していくことを考えています。健康や暮らしを支える配食、移送、買い物サービスなど、制度がカバーできていないものに光を当てていきたいと考えています。

（社会福祉法人
サンシャイン福祉振興会理事長・
聖隷クリストファー大学
大学院教授）

大友信勝

タオルをいただけませんか

サンシャインでは、タオル・バスタオルをいろいろな用途に合わせて使っています。

例えば、ピンク系のタオルは食事用。黄色系は洗顔用、柄物は手ふき用、青色系は入浴時や移乗用に使っています。

しかし、毎日使用しているとすぐに擦り切れて使えなくなってしまう。タオルはそのままいただければ、ボランティアの方が用途に合わせて縫ってくださいます。

未使用のタオルに限ります



▲ボランティアさんによる縫製

が、家にあまっている物があればいただけませんか。
ご協力をよろしく願います。

文芸コーナー

何時の間に卒寿となりて祝い酒
父母と来て有りの実食ぶる石の上
若駒が暴れ廻って名世を
意のままにゆかぬ浮世の通り道
良きに解して吾が道をゆく
朝夕に電話くれる孫娘
それ待つつ私は百に近し
忘れても二人で寄りそう永久の道
子が子なら親も親なら国も国

成美 熊ん蜂
秀子 宮豆
もとも みつ子
ひろえもん

